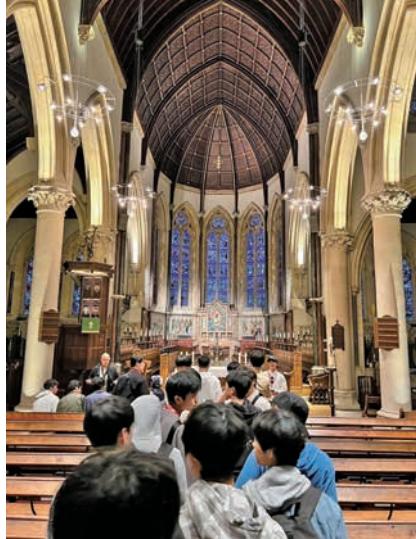


校舎の裏手に秋の訪れ—アレチヌスピットハギ

**英語学研修  
(ハロウスクール)**

八月二日前七時、私たち池袋校の三十名は、それ空港に集合した。互いの持ち物や小遣いを確認する声が自然と弾む。下がる目尻とは対照的に口角は上がりっぱなしだ。いよいよこの夏のメインイベント "Harrow Summer School 2023" の幕開けだ。

約十四時間のフライトを経てヒースロー空港に降り立った瞬間、日本とは比べ物にならないほどの寒さに思わず肩をすばめる。その寒さがロンドンに到着したことを実感させた。かつてハリー・ポッターが好き過ぎる少年だった私にとっては憧れであった。ホグワーツのような城ではないが、広大な敷地内に建つ、伝統的なイギリス建築の赤レンガ校舎とハウスは、名門の風格を漂わせ、まるで映画の中に入り込んだような錯覚さえ覚えた。しかもハロウには「ハリー・ポッターと賢者の石」の撮影に使われた教室もある。もちろん皆で訪れ、各々がハリーになりきって記念写真を撮つたことは言うまでもない。



このように母任せのことを全て自分で行わなければいけないが、やつてみたら意外とできただ。ただ自然のように母にさせていたことを申し訳なく思つた。これに気づいたのも一つの成長である。

ハウスでは、各自一人部屋を与えられ、自宅ほどではないが快適な生活が送れたと言えるだろう。ただハウスでは、各自一人部屋を与えられ、自宅ほどではないが快適な生活が送れたと言えるだろう。ただ



二日目にクラス分けテストを受け、三日目から本格的な授業が始まった。主に現地で使える単語を中心に学ぶ、比較的簡単な授業であった。私は、多国籍なメンバーと一緒にデイベートをするような授業を想像していたので、若干の物足りなさを感じたが、そもそも私たちのレベルではそれは難しい現

當然だが母が作る物とは全く違う。私たちはどれほど恵まれているのかを思い知らされた。外出時のお弁当も、さで、味が薄くあまりにもまずかったので、その夜は立望に打ちひしがれていた。外出時のお弁当も、さで、味が薄くあまりにもまずかったので、その夜は立望に打ちひしがれていた。外出時のお弁当も、

学生たちとスタッフで思い出すことができるようになり、さらに互いの距離も縮ました。特に相手が喋る英語を聞き取る際には、喋る英語のスピードが速くて聞き取りづらかったです。やはり、現地の人気が喋る英語は違うと思います。しかし、僕がアメリカに行つて一番に感じたのは文化の違いです。また、アメリカにはフレンドリーな人が多く、店員の方も親しげな口調で話してくれます。まさに、アメリカには

この研修で得たもの、それは英語のスキルアップだけではない。自らアクションを起こし、積極的に交流を図るスタンスである。ハロウでの経験は、私たちに現地で使える単語を中心

**キャンプステイーインスを通じて感じた国ごとの文化**

今年の夏は、中学生最後の夏だったため、有意義な休みを過ごしたいと考えました。そのため、今年の三月に英語の先生からア

最後になつたが、この研修に関わりサポートしてくれださつた全ての方々に感謝したい。最高の夏をありがとうございました。

(高一 阿部知篤)

メリカキャンプの話を聞いて、参加したいと思っていました。このキャンプでは最初と最後は観光を行い、その後に約一週間のキャンプ(キャンプステイーインス)を行ければ、生活の言語が人々との会話を通じて英語に変わります。現地の



本の遊びを紹介する日( JAPAN DAY )の間に、アメリカの人々が自分がある姿を見ると、アメリカ人よりも興味津々といった目で遊びを楽しんでくれました。アメリカの人が自分が紹介した遊びを楽しんでい

を学びたいと強く思いました。実際にに行ってみると、予想以上に実際に行ってみると、予想以上に英語の会話に苦労しました。特に相手が喋る英語を聞き取る際には、喋る英語のスピードが速くて聞き取りづらかったです。やはり、現地の人気が喋る英語は違うと思います。しかし、僕がアメリカに行つて一番に感じたのは文化の違いです。また、アメリカにはフレンドリーな人が多く、店員の方も親しげな口調で話してくれます。まさに、アメリカには

このキャンプでは、観光に行く前に自分が準備したことが報われた気がして、とても安堵したことはこのように、久しぶりに



海外に行って、違う国に行されることを改めて感じました。これはアメリカだけでなく、他の国にも当たるだと思います。また海外に行く機会があれば、日本との文化の違いを意識し、それぞれの国の文化を学んでみたいですね。そのためには、英語に限らず外国语を勉強することが必要です。ですが、まずは英語を勉強し、英語圏の国の文化を学べるようにしたいです。

(中三 矢嶋透大)

今回僕が参加した理由としては、以前からアメリカに留学しに行きたいと考えていたところにちょうどアメリカサマーキャンププログラムが開催されるとのことで、参加させていただきました。プログラムの内容としては、アメリカに着いたらシアトル市内にて自主研修を行った後に、キャンプヒューストン市内に戻って半日自主研修して帰国という内容です。

シアトルはアメリカでも比較的治安が良く観光場所も多いため、自主研修にはうつてつけの場所で一号店やスターバックスの第ニードル、ポップカルチャーミュージアム等があります。僕たちはスター・バックス一号店に行つたのですが、予想以上に人が並んでおり少し驚きました。

さて、キャンプの全体像の話になつていきます。キャンプに着きましたら、基本はみんなで何かをするのが多いと思いました。現地の同じ年ぐらいの子供と話し合いで課題を解決していくディスカバリー・ソースの上に乗ります。例を挙げますと、ディスクバリータイムの方々は、大きな体験ができる人などがどの位置に立けばシーソーのかなり偏りがなくなるのか

でも比較的治安が良く観光場所も多いため、自主研修にはうつてつけの場所で一号店やスターバックスの第ニードル、ポップカルチャーミュージアム等があります。僕たちはスター・バックス一号店に行つたのですが、予想以上に人が並んでおり少し驚きました。

シートルはアメリカでも比較的治安が良く観光場所も多いため、自主研修にはうつてつけの場所で一号店やスターバックスの第ニードル、ポップカルチャーミュージアム等があります。僕たちはスター・バックス一号店に行つたのですが、予想以上に人が並んでおり少し驚きました。

## キャンプヒューストン

でも比較的治安が良く観光場所も多いため、自主研修にはうつてつけの場所で一号店やスターバックスの第ニードル、ポップカルチャーミュージアム等があります。僕たちはスター・バックス一号店に行つたのですが、予想以上に人が並んでおり少し驚きました。



## 言語の壁—日英サイエンスワークショップ in 東北



(中三 半澤源基)

は今まで自分

が経験してこ

なかつた同年代の英語圏の人達との交流

が、これまで自分

が経験してこ

なかつた同年代の英語圏の人達との交流



加しているが、十年連続で今年も採択していただいだ。このコンクールも高校生部門がなくなり、一般部門だけになっている。VRという言葉が、完全に定着した今、応募団体数も過去最高になつた。

さて、今年の発表作品は「いすバスでシューート体験」である。試しに乗つてみると、これはあつても通常車椅子を操作するといふこと経験をすることは少ない。そこで、パラリンピックでは人気の車いすバスケットボールのシミュレーションを制作することにした。市販の車椅子を改造し、車輪の回転、手の動き、最後はショートの表現をセンサーを用いて再現したデバイスを作成したコンテンツである。残念ながら決勝大会には残らなかつたが、汎大で作成した

授業を螺の飛びます」優秀賞（星野高士選）、「道徳の授業を螺の飛びます」小幡曜（三年）、「道徳の授業を螺の飛びます」大竹七生（二年）、「ハンモック寝れば尾骨はたしかに尾」栗本拓実（二年）、「ぶんぶんを船より投ぐや帰つくる」優秀賞（村上鞆彦選）、「ぶんぶんを船より投ぐや帰つくる」栗本拓実（二年）、「ぶんぶんを船より投ぐや帰つくる」優秀賞（村上鞆彦選）、「ぶんぶんを船より投ぐや帰つくる」



審査中の様子

### 高校文芸部 俳句甲子園での活躍

◆ 第二十六回 俳句甲子園 全国大会（八月十八日）二十日・愛媛県松山市

▽ 出場者

Aチーム - 赤松優・岡部優司・小幡曜・辻村幸多・三宅爽太・望月陸玖（三年）

Bチーム - 大竹七生・川本伊吹・栗本拓実・栗山輝・小林佳武以（二年）

△ 団体 第三位 - Aチーム

▽ 個人 入選 - 辻村幸多（三年）

「塵取を出るかなぶんを

用性のあるコンテンツとして高い評価を得ることができた。ぜひR.I.F.で体験して頂ければと思っている。（顧問 内田芳宏）



高校文芸部 俳句甲子園での活躍

八月に開催された俳句甲子園は、高三辻村の選手宣誓により幕が開きました。高二（Bチーム）は、一日目の予選リーグで惜しくも敗退してしまいましたが、今後の活躍を期待せざる試合展開を繰り広げました。一方、高三（Aチーム）

は、一日目の予選リーグと開成の試合のことを書いたくださいました。これは週刊誌のコラムに立教池袋と開成の試合のことと開成の試合のことと書いたことがあります。（決勝リーグまで進んだチームの試合の様子は、YouTubeからも観れます。彼らの雄姿をぜひご覧ください。）また数名の審査員長（俳人）が、それぞれ一句だけお気に入りの句を選び取るという名譽ある賞、優秀賞を一大会で三名もの部員が受賞し、立教池袋文芸部史上最高の結果を残すことなどができました。部員をここまで導いた社会人コーチ（俳人）の進藤剛至先生、学生コーチの田村奏天君、家庭でサ

は、一日目の予選リーグと予選トーナメントを見事勝ち抜き、本校としては、十回目の出場にして初めて二回目の決勝リーグに進出した。優勝校の開成高校に敗れはしたもの、観客に敗れはしたもの、観客の記憶に確かに残る試合をし遂げました。

俳句甲子園の生みの親であり審査員長でもある夏井いつき先生は、先日、ある週刊誌のコラムに立教池袋と開成の試合のことと書いたことがあります。（決勝リーグまで進んだチームの試合の様子は、YouTubeからも観れます。彼らの雄姿をぜひご覧ください。）また数名の審査員長（俳人）が、それぞれ一句だけお気に入りの句を選び取るという名譽ある賞、優秀賞を一大会で三名もの部員が受賞し、立教池袋文芸部史上最高の結果を残すことなどができました。部員をここまで導いた社会人コーチ（俳人）の進藤剛至先生、学生コーチの田村奏天君、家庭でサ

は、一日目の予選リーグと予選トーナメントを見事勝ち抜き、本校としては、十回目の出場にして初めて二回目の決勝リーグに進出した。優勝校の開成高校に王手をかけられて迎えた副将戦は、七本中六本を取り勝て完敗した。五年半の文芸部生活がここでいま終わったのだと思うと、泣き顔を晒すことを躊躇う余裕などなかつた。

大将戦ではもう喋れないかもしない。そう思つたけれど、やっぱり最後は華々しく散りたくて、なんとか二回マイクを握つた。そして、判定。客席の大歓声に顔を上げると、すべての旗が、立教に上げられていた。それはそれは美しくて、

ボートしてくださいた保護者の皆様、応援してくださいました。敗北を告げる無情な審査員の旗。そのときの優勝以外に満足できない相手チームだった開成高校に王手をかけられて迎えた副将戦は、七本中六本を取り勝て完敗した。五年半の文芸部生活がここでいま終わったのだと思うと、泣き顔を晒すことを躊躇う余裕などなかつた。

私たち吹奏楽部は、前期から夏休みにかけ、八月に行われた吹奏楽コンクールの練習に全力を注いできました。結果を先に述べると、中学校吹奏楽部は四組に出演し、去年に引き続

だからこそ、どうしても泣いてしまう眺めだった。優勝以外に満足できない面倒な性格に生まれついてしまって、結局今年も傷を生んでしまった。それで、去年とは違うちょっとした満足感が胸にあることは、確かだ。

（高三 辻村幸多）



### 吹奏楽部 - 中高とも金賞

き二年連続となる金賞を受賞し、そして高校吹奏楽部は東日本組に登場し、三年連続となる金賞受賞及び、三年連続となる金賞受賞及び、果たしました。これは、一九九四年の創部以来二度目となる中学校と高校での同時金賞獲得（一度目は昨年）、また、高校は史上初めてとなる三年連続の金賞かつ代表選考会出場を果たし、快挙を果たしました。これは、今年の中学校は、昨年に引き続き高校生レベルの難曲を、また高校は、プロの演奏家でも難しいとされる、「組曲」（一曲の中にテイストの全く異なるいく

くには、どうしても基礎のボテンシャルや体力が重要になると考えていました。今年の中学生は皆が自ら基礎力の大切さに気がつきしっかりと基礎練習をしていましたように思えます。その甲斐もあり、本番ではその甲斐もあり、本番では突出して素晴らしいサンドがホールに響いていました。

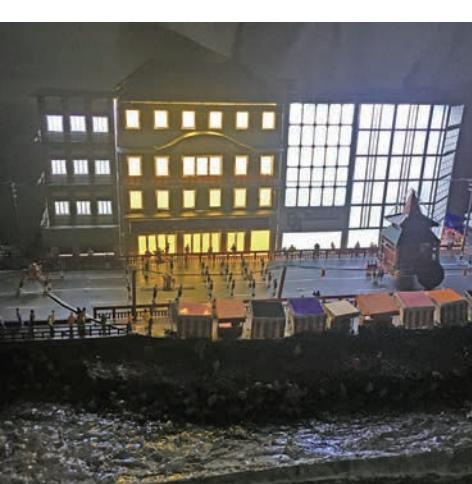
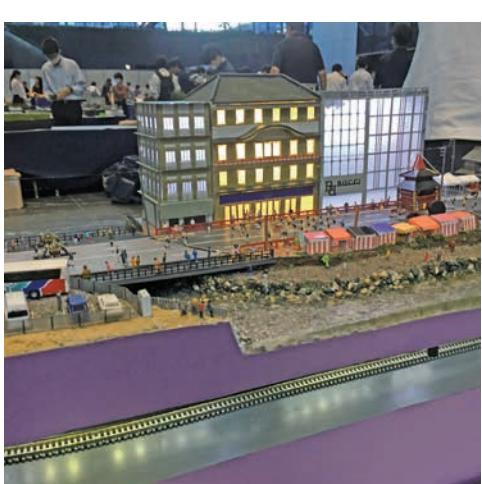
高校生は、今年は嬉しいことに七名の新入部員を迎えるました。五月に初めて合奏を行った際は、中学・高校と共にそれぞれ曲の難易度の高さを目の当たりにし、正直この曲を完成させられるのか先が見えない状況に、部員も不安な気持ちで溢れていたのではないかと思ひます。

つかの曲が合わさった構成となつていてる曲）に挑戦しました。五月に初めて合奏を行った際は、中学・高校と共にそれぞれ曲の難易度の高さを目の当たりにし、正直この曲を完成させられるか」「なぜコンクールに出るのか」「なぜ音楽をやるのか」といった根本の考え方を皆で再確認し合い、特に本番前の1週間は、先輩後輩やパートなどにとらわれず、足りていない部分を補い合ったり、できていらないところを指摘しあつたりするなど、如何にして最高のサウンドを作り出すか、ということに對して部員一人が真剣に向き合い練習することができました。このようないまの困難を乗り越えたからこそ、皆が一丸となつて一つの目標へと努力する意を再確認することができます

き自身の技術向上を図ることにはもつてこいのチャンスとなります。何事にも基礎が必要となります。が、私自身中学校時代の経験を振り返ってみても、樂器で技術の向上を目指していくには、どうしても基礎のボテンシャルや体力が重要なと想っています。今年の中学生は皆が自ら基礎力の大切さに気がつきしっかりと基礎練習をしていましたように思えます。その甲斐もあり、本番では突出して素晴らしいサンドがホールに響いていました。



が、自分自身の技術向上させるにはもつてこいのチャンスとなります。何事にも基礎が必要となります。が、私自身中学校時代の経験を振り返ってみても、樂器で技術の向上を目指していくには、どうしても基礎のボテンシャルや体力が重要なと想っています。今年の中学生は皆が自ら基礎力の大切さに気がつきしっかりと基礎練習をしていましたように思えます。その甲斐もあり、本番では突出して素晴らしいサンドがホールに響いていました。



## 第十五回全国高等学校鉄道模型コンテスト 祇園四条駅をモチーフにベストリアル情景賞 受賞——中高鉄道研究部

今夏も毎年恒例となつた全国高等学校鉄道模型コンテストのモジュール部門参

加に向け、夏休み前半をほぼ毎日使い制作を進めました。今回は、京阪電車の祇園四条（地下駅）と近隣の界隈（南座や商業施設を含む）をモジュールの空間に再構成しました。京都の観光スポットをモチーフに、気分は「京阪のる人、模型班」です。

3Dプリンターを駆使する関西・魚崎の名門、灘校内照式LED、清流は立教池袋駅西口で行われるグローバルリング音楽祭、三月には定期演奏会など今月もイベントがたくさん待ち構えています。今後の演奏会も皆さんに楽しんで頂けるよう部員一同心を込めて演奏しますので、ぜひ吹奏楽部の演奏をお楽しみいただければ幸いです。



065-立教池袋中学校・高等学校鉄道研究部  
中間テスト明け、モジユールボーデと呼ばれる板が到着する。今回の作品は本校鉄道研究部では初となる地下駅の制作をする事が決まっていた。これは事前に、部員内で意見を出し合つて決定したもので、京阪電車の祇園四条駅といふ四条駅は京都市内に位置する駅で、京都と言えば誰もが想像する風景と、近くを流れる鴨川の風情は模型制作に非常に適した物で、土台の地形を制作する制作開始してから一週間あつた。



ところから始まる。この作業は言つてしまえばとても簡単な作業でサクサクと進んで行く。この作業が終わると川の作成や橋、道路や山など、街のベースとなる物を作っていく。この時点で、地下駅である駅部分と、上の街の風景は別々に制作が進んでおり、駅部分ではある問題にぶつかつていた。ホームが暗くなりメインである鉄道が目立たなくなりってしまうということだ。鉄道模型コンテストではこれは致命的な問題である。解決策として、地下のホームの部分にLEDを仕込んで明るく照らすことにしてしまった。中三の部員が率先してこの作業を進めてくれた甲斐あって、とても綺麗にホーム部分を制作する事ができた。



この模型には鴨川をモチーフにした川を制作する必要があった。レジンに似た二十四時間ほどで固まる液体を流すのだが、これがとても難しい。液体が漏れないので何度もガムテープを張り直し三回ほど固定したら漏れることなく

流すことができた。鉄道模型製作は、困難の連続である。実際に先ほどにもさまざまな壁にあたる。そのために力を合わせて解決してきた。その他にもの重量やサイズなどいろいろな条件がある。しかし、模型製作にはそれをひとつひとつ解決していくことにたのしみがあり、完成了時の喜びははかりしないものである。高一石塚壮二郎

## 十字架 今月の聖句

*Jesus said, "If anyone thirsts, let them come to Me and drink. Those who believe in me, as the Scripture has said, out of their heart will flow rivers of living water."*

John 7:37-38

THIS summer has been called the hottest on record. The very hot and humid conditions we have experienced have been replicated in most places around the Northern Hemisphere. Some people are even saying that this summer's conditions will not be unusual, but rather normal from now on. Long hot summer days are often accompanied by lack of rainfall. This type of condition, heat and lack of water, was normal for our biblical ancestors who lived right on the edge of a desert. Year to year slight changes in climatic conditions caused them to be concerned and also to rely on God's helping hand. Because the desert is right at Israel's doorstep and the rains only come in winter, it is a place where saving and storing water has always been important. The Jordan is the only large river. It empties, almost uselessly at its end, into the Dead Sea where evaporation further reduces what little water there is. So, from earliest times, the villages that dotted the land relied upon wells and springs for their water supply. The right of access to these water sources was an extremely valuable privilege. If a well was blocked or dried up, the local inhabitants would have to leave or perish. As villages became towns and later cities, the problem of keeping them supplied with water

became more and more intense. Jerusalem, located at a high altitude in very porous limestone hills, eventually needed an entire system of waterworks. In the Old Testament (II Kings 20:20) King Hezekiah "built a reservoir and dug a tunnel to bring water into the city" to safeguard its supply of water. Later, the Romans built a network of aqueducts and irrigation canals. But after they left, these fell into disrepair. Only since the 1920's have they been restored or replaced. When the modern state of Israel began in 1948, one of the first projects they undertook was to secure water sources. Relying only on the Jordan River would not be enough, so a project to divert water from the Galilee was begun. The main hurdle was that both Lake Galilee and the Jordan River are below sea level, so it was necessary to pump water over the highlands and down to the plains through a network of canals and tunnels. Presently, this system goes as far as the Tekuma reservoir near Gaza. From this reservoir, water can reach the fringes of the desert in the far south. Our biblical ancestors lived on the edge, through hot and dry summers. Let their faithfulness in God's helping hands be a further inspiration to us.

(チャプレン マーク・シュタール)